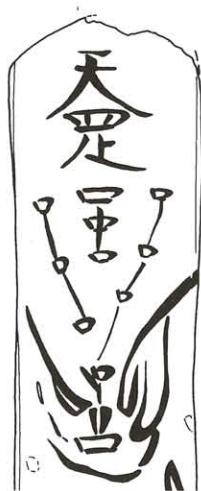

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

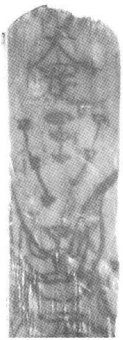
紀要

2003



2004年12月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター



(表紙) 鹿田遺跡第14次調査 (病棟)
出土の木簡
(平安時代後半～末)

(裏表紙) 鹿田遺跡第7次調査
(基礎医学棟) 出土の猿形木製品
(鎌倉時代末～室町時代)

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要

2003

2004年12月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

序

2003（平成15）年度には、鹿田地区において医学部附属病院病棟新営工事にともなう発掘調査等を実施するとともに、室内整理作業を進めて創立五十周年記念館およびサテライト・ベンチャービジネス・ラボラトリーの新営にともなっておこなった発掘調査の成果を報告書として刊行することができました。

今回の鹿田地区附属病院病棟新営にかかわる発掘調査は1998（平成10）年・1999（平成11）年の第9次・第11次調査に続くもので、西側から3回に分けて実施した発掘により本学構内の遺跡発掘としてはかなり大きい5400平方メートルの調査を終えることとなりました。病棟建設地全域においては、まず弥生時代後期から古墳時代にかけての水田遺構が造成され、その上層では本遺跡の主体をなす中世・近世の遺構群がひろがっていました。調査区南端の大規模な東西溝を中心として、これに交差する南北溝やため池状遺構、あるいは調査区北寄りに集中する建物柱穴群や井戸・土坑等が見られました。広い面積の調査で鹿田地区南西部の遺跡内容が明らかとなったので、今後は、病棟建設地のすぐ南側で実施したエネルギーセンター建設地の発掘結果もあわせ、できるだけ早い機会に調査成果を報告書としてまとめたいと思っています。

なお、今回の病棟建設地の発掘調査期間中には、前2回の調査地に建設された建物の1階ロビーにおいて鹿田遺跡発掘20周年特別展示会を7日間にわたって開催しました。患者さんや病院職員・一般市民の方々多数が、通りすがりに、あるいはじっくりとパネル写真や出土遺物を観察して下さり、毎年津島地区でおこなっているキャンパス発掘成果展とはいっぴりか異なった雰囲気がありました。とりわけ入院患者の皆さんの熱心さは、説明にあたった職員一同への励ましともなりました。

こうした発掘調査の実施や展示会・成果展等の開催等にあたっては、本学内外の多くの方々からご協力をいただきました。関係部局・各位に厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、本学が2004（平成16）年4月1日から国立大学法人岡山大学へ移行したのにもない、本センターも法人理事がセンター長を兼務し、副センター長職を設けて新たな体制で運営にあたることとなりました。構内遺跡の保護・調査・研究、調査成果の公開・普及等の事業のいっぴりの発展に努めたいと思いますので、今後ともご支援をお願いする次第です。

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

センター長（理事・事務局長） 阿 部 健
副センター長（文化科学研究科教授） 稲 田 孝 司

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2003

目 次

第1章 津島岡大遺跡の調査研究

| | |
|---------------------------|-------------|
| 第1節 立会調査の概要 | 1 |
| 1. 調査の実施状況 | (光本順) 1 |
| 2. 公共下水桝接続工事に伴う立会調査 | (野崎貴博・光本) 1 |
| 3. 総合研究棟新営雨水排水敷設工事に伴う立会調査 | (野崎) 6 |
| 4. その他の立会調査 | (光本) 8 |
| 第2節 津島岡大遺跡の研究 | 13 |
| 1. 縄文時代後期の集落構造とその推移 | (山本悦世) 13 |

第2章 鹿田遺跡の調査研究

| | |
|----------------------------|-----------|
| 第1節 発掘調査の概要 | 21 |
| 1. 鹿田遺跡第14次調査(医学部附属病院病棟) | (岩崎志保) 21 |
| 2. 鹿田遺跡第15次調査(総合教育研究棟関連工事) | (野崎) 25 |
| 第2節 立会調査の概要 | (野崎) 28 |
| 1. 総合教育研究棟新営屋外排水敷設工事に伴う調査 | 28 |
| 2. 総合教育研究棟外構工事に伴う調査 | 29 |
| 第3節 鹿田遺跡の研究 | 33 |
| 1. 鹿田遺跡第14次調査出土木簡について | (岩崎) 33 |

第3章 その他地区の調査研究

| | |
|---------------|---------|
| 第1節 東山地区の調査概要 | (岩崎) 36 |
|---------------|---------|

第4章 調査資料の整理・研究および公開・活用

| | |
|------------------------|---------|
| 第1節 調査資料の整理・研究 | 37 |
| 1. 調査資料の整理 | (山本) 37 |
| 2. 調査資料の分析 | (岩崎) 37 |
| 3. 調査資料の保存処理 | (岩崎) 46 |
| 第2節 調査成果の公開・活用 | (山本) 46 |
| 1. 公開・展示 | 46 |
| 2. 資料・施設等の利活用 | 50 |
| 第3節 2003年度調査研究員の個別研究活動 | 52 |
| 1. 科学研究費採択状況 | 52 |
| 2. 論文・資料報告 | 52 |
| 3. 研究発表等 | 53 |
| 4. 資料収集・実態調査 | 53 |

第5章 2003年度における調査・研究のまとめ (山本) 54

付 編

| | |
|------------------------------|----|
| 岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項 | 55 |
| 1. 岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの規程 | |
| 2. 2003年度岡山大学埋蔵文化財調査研究センター組織 | |
| 3. 岡山大学構内遺跡の発掘調査にかかわる安全管理事項 | |
| 4. 2004年度の新規程およびセンター組織に関する事項 | |
| 付表・付図 | 63 |

挿 図 目 次

第 1 章

| | | |
|-----|------------------------------|-------|
| 図 1 | 調査区と土層柱状図位置 | 2 |
| 図 2 | 土層柱状図 | 2 |
| 図 3 | A 地区 土層断面位置 | 2 |
| 図 4 | A 地区 土層断面 | 2 |
| 図 5 | B 地区 遺構断面位置 | 3 |
| 図 6 | B 地区 遺構平・断面 | 3 |
| 図 7 | No.4区間 調査位置・土層断面位置 | 4 |
| 図 8 | No.4区間 榊東壁土層断面 | 5 |
| 図 9 | No.6区間 調査区・土層断面位置 | 5 |
| 図10 | No.6区間 土層断面 | 5 |
| 図11 | 調査区位置 | 6 |
| 図12 | 土層断面柱状図 | 6 |
| 図13 | A 地点 溝群土層断面 | 7 |
| 図14 | B 地点 遺構群土層断面 | 7 |
| 図15 | 津島地区における立会調査地点 土層柱状図 | 8 |
| 図16 | 2003年度の調査地点【1】—津島地区— | 11~12 |
| 図17 | 津島岡大遺跡の位置と周辺環境 | 13 |
| 図18 | 津島岡大遺跡における地形復元と調査地点 | 14 |
| 図19 | 各調査地点の類型化と空間利用 1 —縄文時代後期— | 17 |
| 図20 | 各調査地点の類型化と空間利用 2 —弥生時代早期— | 18 |

第 2 章

| | | |
|-----|------------|----|
| 図21 | 第14次調査地点位置 | 22 |
| 図22 | 土層断面柱状図 | 22 |
| 図23 | 検出遺構全体図 | 24 |
| 図24 | 第15次調査地点位置 | 25 |

| | | |
|-----|---------------------------|----|
| 図25 | 調査区南壁土層断面 | 26 |
| 図26 | 検出遺構平面図 | 27 |
| 図27 | 井戸 平・断面図 | 27 |
| 図28 | 調査位置 | 29 |
| 図29 | 土層柱状図の位置と土層断面 | 29 |
| 図30 | 調査位置・土層柱状図位置 | 30 |
| 図31 | 土層柱状図 | 30 |
| 図32 | 5~7区間 土層断面 | 30 |
| 図33 | 2003年度の調査地点【2】—鹿田地区— | 32 |
| 図34 | 鹿田遺跡第9・11・14次調査 木簡出土地点 | 33 |
| 図35 | 木簡出土状況 | 33 |
| 図36 | 鹿田遺跡出土木簡 | 34 |
| 図37 | 木簡の類例 | 35 |

第 3 章

| | | |
|-----|----------------------|----|
| 図38 | 2003年度の調査地点【3】—東山地区— | 36 |
|-----|----------------------|----|

第 4 章

| | | |
|-----|-----------------------|----|
| 図39 | 出土鉄滓外観写真 | 42 |
| 図40 | 出土鉄滓類の全鉄量と二酸化チタン量の分布図 | 42 |
| 図41 | 製錬滓と鍛冶滓の分類 | 42 |
| 図42 | 砂鉄系鍛冶滓と鉍石系製錬滓の分類 | 42 |
| 図43 | 粘土遺物の化学成分と耐火度との関係 | 42 |
| 図44 | ミクロ組織写真 | 43 |
| 図45 | 鹿田遺跡第14次調査現地説明会風景 | 46 |
| 図46 | 鹿田キャンパス特別展示会風景 | 47 |
| 図47 | 展示会日別入場者数 | 48 |
| 図48 | 展示会見学風景 | 48 |
| 図49 | 津島キャンパス展示風景 | 49 |

表 目 次

| | | |
|-----|--------------------|----|
| 表 1 | 2003年度津島地区調査一覧 | 9 |
| 表 2 | 津島岡大遺跡調査概要一覧 | 15 |
| 表 3 | 遺構分布状況からの類型基準 | 15 |
| 表 4 | 遺物(土器)出土状況からの類型基準 | 15 |
| 表 5 | 各調査地点の類型表 | 15 |
| 表 6 | a. 類型の相関関係—縄文時代後期— | 16 |
| | b. 類型の相関関係—弥生時代早期— | 16 |
| 表 7 | 低湿地型貯蔵穴一覧(岡山県) | 20 |
| 表 8 | 2003年度鹿田地区調査一覧 | 31 |
| 表 9 | 2003年度東山地区調査一覧 | 36 |

| | | |
|-----|---------------------------------|----|
| 表10 | 調査資料と調査項目 (津島岡大遺跡出土資料) | 44 |
| 表11 | 津島岡大遺跡出土鉄滓の 化学成分分析結果 | 44 |
| 表12 | 胎土の化学成分分析結果と 耐火度測定結果 | 44 |
| 表13 | 鉄滓資料の X 線回析鉍物・ 顕微鏡組織と製造工程の分類 | 44 |
| 表14 | 土壌サンプリング分析値 | 45 |
| 表15 | 保存処理工程表 | 46 |

付表・付図

| | | |
|------|------------------------------|-------|
| 付表 1 | 1982年度以前の構内主要調査（1980～1982年度） | 63 |
| 付表 2 | 2002年度以前の構内主要調査（1983～2002年度） | 63 |
| 付表 3 | 埋蔵文化財調査研究センター収蔵遺物概要 | 69 |
| 付表 4 | 埋蔵文化財調査室刊行物 | 71 |
| 付表 5 | 埋蔵文化財調査研究センター刊行物 | 71 |
| 付図 1 | 津島地区全体図 | 72 |
| 付図 2 | 2002年度までの調査地点【1】－津島地区－ | 73～74 |
| 付図 3 | 2002年度までの調査地点【2】－鹿田地区－ | 75 |
| 付図 4 | 2002年度までの調査地点【3】－三朝地区－ | 76 |
| 付図 5 | 2002年度までの調査地点【4】－東山地区－ | 76 |
| 付図 6 | 2002年度までの調査地点【5】－倉敷地区－ | 76 |

例 言

1. 本紀要は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センターが岡山大学構内において2003年4月1日から2004年3月31日までに実施した埋蔵文化財の調査研究成果及びセンターの活動についてまとめたものである。
2. 本紀要において報告している津島岡大遺跡は岡山市津島中三丁目1-1、鹿田遺跡は岡山市鹿田町二丁目5-1にそれぞれ所在する。
3. 資料分析にあたっては、岡山大学理学部地球科学科松田敏彦助教ならびに岡山理科大学自然科学研究所の白石純氏にご協力・ご助言を頂いた。記して感謝申し上げる。
4. 本文は、岩崎志保・野崎貴博・光本順・山本悦世が分担執筆し、執筆者名は目次および文末に記した。
5. 編集は阿部健センター長・稲田孝司副センター長の指導の元に山本が担当した。

凡 例

1. 大学構内の埋蔵文化財の調査にあたっては、平成14年度（2002年）4月1日より施行された「測量法及び水路業務法の一部を改正する法律」に基づき、世界測地系を採用し、構内座標を次のように定めている。
 - 1) 津島地区では、国土座標第V座標系（ $X=-144,156.4617\text{m}$ 、 $Y=-37,246.7496\text{m}$ ）を起点とし、真北を基軸とした構内座標を設定する。一辺50mの方形区画である。また、同地区では調査の便宜上、大きく津島北地区と、同南地区に二分する（付図1）。
 - 2) 鹿田地区では、国土座標第V座標系（ $X=-149,456.3718\text{m}$ 、 $Y=-37,646.7700\text{m}$ ）を起点とし、座標軸をN-15°-Eに振ったものを基軸とした構内座標を設定する。地区割りは一辺5mの方形を基準としている。
 - 3) 本文中で用いる方位は、津島地区・鹿田地区は国土座標系の座標北を、他は磁北を用いている。
2. 岡山大学構内の遺跡名は、周知の遺跡の場合はそのまま踏襲する。三朝地区の発掘調査地点は小字名をとり「福呂遺跡」と呼称する。他地区は任意の名称で仮称する。
3. 調査名称は「発掘調査」に分類したものについては、各遺跡ごとに調査順に従って次数番号で呼称し、「試掘・確認調査」「立会調査」に分類したものについては、任意の名称を用いる。発掘調査のうち、小規模で確認調査から連続して調査したものは「試掘・確認調査」に分類する。
4. 「発掘調査」についての記述は、いずれも現段階での概要報告であり、詳細な正式報告ではない。
5. 表に記載した所属部は、原則として各学部の頭文字を略号として用いている。
6. 付表2に記載した調査一覧については、掘削深度が中世層以下に達した調査を対象とし、その他については除外した。未掲載分も含め、全てのデータは、当センターにおいて管理している。
7. 本文などで使用の調査番号は表と一致する。
8. 本紀要に掲載の地形図（付図1）は、平成10年岡山市発行の岡山市域図7-9・10・13・14を複写したものである。